

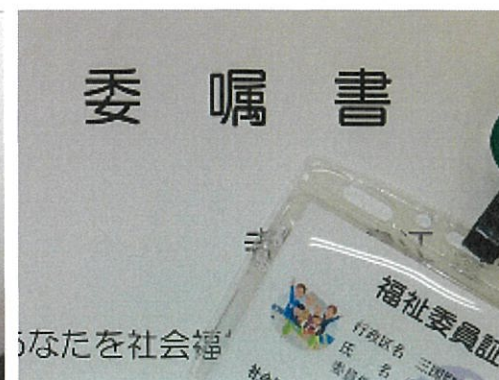
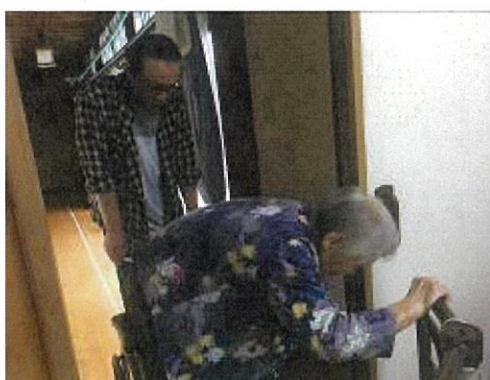


福祉委員 活動事例集



～だれもが安心して暮らせる見守りネットワークを目指して～

 社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会



はじめに

近年、わたしたちの暮らしを取り巻く社会環境は、少子高齢・人口減少社会の進展により、家族構成や生活形態も大きく変容し、人と人との助け合いや支え合い機能が弱まりつつあります。

これらを背景に、民生委員・児童委員さんと一緒に地域での高齢者や障がい者、子どもたち、だれもが安心して暮らせる見守りネットワークの一躍を担うのが福祉委員です。

この「福祉委員活動事例集」は、市内での先進的な活動実践をとりまとめたものです。本事例集が福祉委員をはじめ地域全体で取り組む見守り活動のご参考になれば幸いです。

最後に、本事例集の作成にあたり、ご協力いただきました関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

もくじ

福祉委員とは...	2
坂井市の気になる数字	4
活動事例 1 三国町全域 「民生委員と福祉委員の“お見合い”が地域を見守る」	5
活動事例 2 春江町江留上大和区 「持ちつ持たれつの積み重ね」	6
活動事例 3 坂井町兵庫地区 「子ども福祉委員！☆み～んなで学ぼう！福祉“共育”☆」	7
活動事例 4 丸岡町猪爪新3区 「一人の悩みはみんなの悩み“できること”を考える」	8
活動事例 5 春江町江留上錦区 「残した記録は“地域の財産”」	9
大雪があったから...	10
坂井市内ではすべての地区が取り組んでいます 福祉マップ	11
福祉委員に聞きました！ あなたの活動を教えてください！	12



福祉委員とは...

身近な地域のなかで高齢者や障がい者、子どもたちの見守り活動を行います。

福祉ニーズ（困りごと）や福祉的な問題を発見した場合は、関係機関へ連絡します。また、困りごとを抱える人へも福祉情報を提供し早期解決へつなげます。

きめ細やかな活動が求められる福祉委員は、区長の推薦により坂井市社会福祉協議会（以下、「社協」といいます。）会長が委嘱しています。

一方、福祉委員の見守り活動がはじまる以前から、民生委員・児童委員が見守り活動を行っています。しかし、受け持つ範囲が福祉委員に比べ広範囲なため活動への負担も少なくありません。

	受け持つ範囲	備 考
福祉委員	単一の行政区 （４０～５０世帯を目安）	委嘱/坂井市社会福祉協議会長 任期/２年間
民生委員・児童委員	複数の行政区 （１００～３００世帯を目安）	委嘱/厚生労働大臣 任期/３年間

これらのことから、福祉委員は民生委員・児童委員と協働し、区長と連携を図りながら、より細かな単位で見守り活動を行うことが大切です。



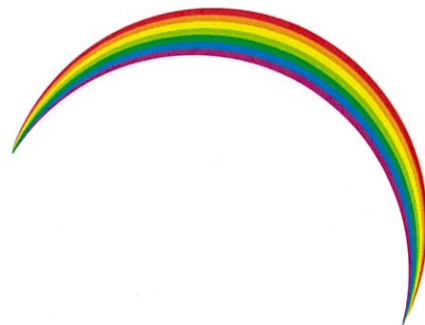
福祉委員の役割

福祉ニーズの発見 〈困りごとの早期発見・連絡〉

普段のくらしのなかで気づいた地域の福祉的な問題や、近所の方々が集まる時に見聞きした地域の福祉ニーズ（困りごと）を把握していく役割が求められます。さりげない見守り活動を行い、福祉ニーズを発見したら、まず、区長や民生委員・児童委員、社協等の関係機関に連絡します。

お知らせ役 〈福祉情報の提供や伝達〉

困りごとを抱え込んでしまう人には「どこに相談すればよいのかわからない」という方が多い傾向にあります。そのような方に対して福祉情報（相談できる関係機関の紹介など）を提供し、困りごと解決のための手段があることをお知らせします。



— 今、地域にできること —

今、日本は「少子高齢社会」のなかで、7年後の2025年には団塊の世代が75歳（後期高齢者）となり高齢者数が総人口の3割を超え、さらに、その内の3割が「認知症」や「寝たきり」になるといわれています。一方、地域では介護や育児に悩む人、ゴミ出しができない高齢者や障がい者など、生活に困る人の増加が予想されています。

福祉委員をはじめ地域の住民同士が、ふだんの暮らしの変化に気づき、困った人の問題を“他人事”ではなく“我が事”として受け止め地域全体でできることを考え行動していくことが大切です。



坂井市の気になる数字

総人口

92,134 人

(31,441 世帯)



坂井市が誕生した 2006 年（平成 18 年）の 95,172 人、28,746 世帯に比べ、3,038 人の減少、2,695 世帯の増加となっています。

65 歳以上の
高齢者人口

25,013 人

(高齢化率 27.1%)



高齢者は年々増加しており
2025 年には高齢者数が
26,018 人（高齢化率
29.3%）となること
が予測されています。

75 歳以上の
高齢者人口

12,523 人

2025 年には団塊
の世代が 75 歳を
むかえます。



- 団塊の世代 -

昭和 22～24 年（1947～
1949 年）頃の『第 1 次ベ
ビーブーム時代』に生まれ
た世代。他世代に比較して
人数が多い。



障がい者
の人口

5,065 人

(手帳所持者数)

内訳は身体の方が 3,661 人、知的の方
が 703 人、精神の方が 701 人となっ
ており、今後は身体の方が減少し精神の方
が増加するといわれています。



14 歳未満
の人口

10,390 人

少子化が進んでいます。出生数をみても
昭和 60 年代は 1,000 人を越えていまし
たが、徐々に減少しており平成 29 年は
646 人です。



※数字は坂井市調べ（平成 30 年 4 月現在）



活動事例 1

三国町全域



民生委員と福祉委員の “お見合い”が地域を見守る

三国町では、見守り活動を行う民生委員・児童委員さんと福祉委員の情報共有や役割分担、活動の悩みなど連携強化の場として、代表者（計 32 名）の合同連絡会を年 3 回開催しています。高齢者から子ども、障がい者のことまで幅広く何でもせることで“一人”が気づいたことを“みんな”のこととして考え町全体で取り組んでいます。



一町の概要

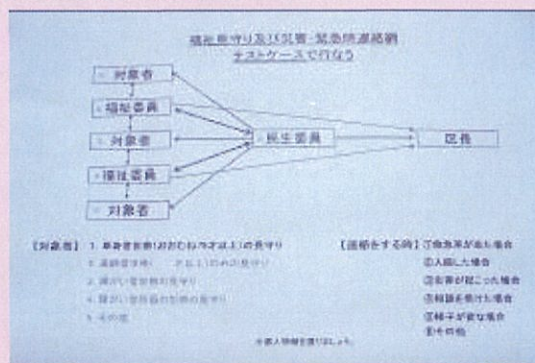


人口 21,500 人
世帯数 7,668 世帯

※数字は坂井市調べ（平成 30 年 4 月現在）

CHECK!

もしものために・・・



区長さん、民生委員・児童委員さん、福祉委員の 3 者が『災害・緊急時連絡網』を作成。もし、一人暮らし高齢者宅に救急車が来たら「ちょっと見に行って！」など気になる情報をメールで共有。～実用化に向けて H30 より試験的にスタート～



活動事例 2 春江町江留上大和区



持ちつ持たれつの積み重ね

定期的に高齢者宅へ訪問し、その人が抱える生活上の困りごと（買物、電球交換、病院への送迎ほか）のお手伝いを行っています。また、高齢者同士が集える場づくりや緊急連絡装置の活用など、自分ができる範囲で見守り活動に取り組んでいます。相手の想いを重視しながら、“やりすぎ活動”にならないよう心がけています。

－地区の概要－



人 口 294人
世帯数 135世帯

※数字は坂井市調べ（平成30年4月現在）

CHECK!

万が一のために・・・

特に必要な対象者には、自宅に市販の緊急連絡装置（送信機）を置いてもらい、万が一のときはボタンを押すだけで受信機に連絡が入ります。



毎日、高齢者と顔を合わせることでお互いさまの関係になり、私からも「隣のおばちゃんに何かあったら連絡してね」とお願いすることもあります。

やっぱり、積み重ねが大事なんですね。（福祉委員 籠谷 松生）



活動事例 3 坂井町兵庫地区



「福祉“共育”」：従来の学校における子どもを対象とした福祉教育だけでなく、さまざまな団体や企業なども含めた地域全体で学び、共に生きる力を育むという趣旨を持たせた造語

敬老会など、まちづくり協議会の行事を通じて見守り活動（年3回）を行っています。はじめは大人だけでしたが、H29.4に社協からのモデル事業『子ども福祉委員』を受け、歳末訪問には子どもたちと一緒に取り組んでいます。おかげで、訪問先の方が事前に身なりを整えていたり、お菓子を準備していたり、良い影響を与えています。



－地区の概要－



人 口 1,909人
世帯数 544世帯

※数字は坂井市調べ（平成30年4月現在）

子どもから大人が学ぶ

子ども福祉委員は、推進委員会を設置しているので、地域や学校の協力も得られやすく、子どもも大人も身近な福祉活動に取り組むことができます。



また、訪問活動の際は事前に子どもたちに声かけの方法やアドバイスを伝えるのですが、それがなくても上手に会話ができる子どももいるので驚きです。子ども福祉委員から学ぶ“大人福祉委員”もたくさんいます。

（福祉委員 内江 輝三）



活動事例 4 丸岡町猪爪新3区



一人の悩みはみんなの悩み 「できること」を考える

地域ケア会議は、高齢者が抱える個別の課題（制度やサービスでは対応できないゴミ出し・買物など）を地域の課題として捉え、その解決に向け地域包括支援センターを中心に、ケアマネジャー、介護事業者、看護師、行政、社協のほか、民生委員・児童委員や福祉委員等が支援内容を話し合う事例検討会です。

市内では、三国、丸岡、春江、坂井の各地域で開催しています。



一地区の概要一



人口 462人
世帯数 165世帯

※数字は坂井市調べ（平成30年4月現在）

「できること」を考え

「できないこと」も考える

はじめて丸岡地域ケア会議に参加したときは、専門職ばかりで緊張しましたが、事例を通していろんな方たちと話し合っていくうちに「福祉委員にできることってなんだろう」と自分自身が具体的に考えるきっかけになりました。

猪爪新3区は、普段から見守りに気を配る地域で私もある程度わかっているつもりですが、今後も地域全体で「できること」も「できないこと」もみんなで考え実践していきたいと思います。

（福祉委員 堀 美奈子）



活動事例 5 春江町江留上錦区



残した記録は「地域の財産」

毎年 8 月に敬老会の案内とともに 75 歳以上の世帯を訪問し、本人の同意を得て個別シートを用いた聞き取り調査（家族構成、健康状態、外出頻度など）を行っています。得た情報については普段の見守りや、災害時には自主防災組織と情報を共有し、優先的に支援を行うために詳細な対象者の情報（家族構成等）を把握するために保管をしています。

CHECK! ～個別シートの活用～

個別シートを用いて訪問することで、対象者の方も熱心になってもらえ関わりも深まるので、いろいろな情報をキャッチできます。裏面には『気づいた点』を時系列に書き込めるので対象者の困りごとや変化にいち早く気づける材料になっています。

－地区の概要－



人口 513人
世帯数 259世帯

※数字は坂井市調べ（平成 30 年 4 月現在）

個別シートは、福祉委員を交代したときの後任への引継ぎ資料としても有効活用しています♪
（福祉委員 坪内 優三）



大雪

があったから...

平成30年2月 嶺北地方を中心に『56豪雪』以来、37年ぶりの記録的な大雪となりました。この異常気象で、わたしたちのくらしは大きな打撃を受けましたが、一方で、区長さん、民生委員・児童委員さん、福祉委員、そして地域全体の助け合いで高齢者や障がい者の方の生活を支えることができました。



ケース1

除雪ができない

除雪することができない高齢者や障がい者の世帯では、ご近所さんたちで協力し合い玄関先や軒下を除雪。



ケース3

買物に行けない

『外出できない=買物に行けない』お隣さんが声を掛け買物を代行。晩ご飯を“おすそわけ”する場面も。



ケース5

エアコンが効かない

原因がわからない高齢者の世帯が多かったケース。ご近所さんが雪で埋もれた室外機の周辺を除雪。



ケース2

外出できない

自宅前は積雪で自動車も出せず歩くこともできない状況のなか、住民が一致団結で主要道路までを除雪。



ケース4

灯油が運べない

「ストーブの灯油がないのに、雪で貯油タンクの灯油を運べない(>_<)」お隣さんが夫婦で除雪。



ケース6

一人ぐらしに不安

「この先も降り続いたら・・・一人だしようしよう」不安な方へ区長さん、民生委員・児童委員さん、福祉委員が連携し合って声掛け。



大雪のなかで『笑顔にホッ』

私の地区では2m以上の降雪。地区が孤立するなか一人暮らし高齢者の安否が気になり、かたっぱしから電話。「今は大丈夫」との声に安堵する一方で安否が確認できない人は家族へ連絡しました。それでも確認できない人は雪を掻き分けながら自宅へ訪問。

「こんな雪のなか来てくれたんか!!おおきんのう」との笑顔にホッとしました。福祉委員の仕事が何かできたような気がしました。

丸岡町山口区 福祉委員 大蔵 富男



坂井市内ではすべての地区が取り組んでいます

福祉マップ

福祉マップとは、区長、民生委員・児童委員、福祉委員等の関係者が地域のなかで日常的な見守りや災害時に支援が必要となる人を確認しあいながら、その情報を住宅地図に落とし込み、目に見える形にしたものです。



福祉マップがもたらす 5つの『できる』

- ① 対象者の数や分布、関係者との位置関係を把握することができる
- ② 関係者間で情報を共有することができる
- ③ 関係者間の連携体制をつくることができる
- ④ 自分の地域を可視化し必要な活動を実践していくことができる
- ⑤ 見守り活動の理解や必要性を深めることができる

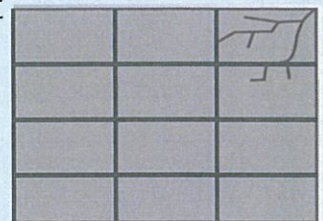
CHECK!

「ブロック塀」にもマーキング！

普段、気にすることのない近所のブロック塀も大地震では倒壊することもある・・・。

「ブロック塀」にもマーキングをしながら避難経路を確認するなど

福祉マップに工夫を凝らす地区も増えてきています。



※社協では、福祉マップを「見守り活動」に関する情報ツールとして捉えていますが、広義では「社会福祉施設」や「バリアフリー（障がい者用トイレ等）」に関するものなど幅広く多岐にわたります。



福祉委員に
聞きました！

あなたの活動を 教えてください！

Q：日頃の活動で工夫していることは？

A：本人のお宅へ訪問するときは“手ぶら”では行きにくいので、サロンの案内チラシなどを持参しています。また担当の民生委員・児童委員さんや本人と仲の良い人と一緒に行くこともあります。

A：対象者が求めているなければ、深く介入しないよう距離間を大事に本人へ自立を促しています。

A：サロンに男性参加者が少ないので、囲碁やそば打ちなどを得意とした男性を講師として依頼し、ほかの男性も誘ってもらうようにしています。

Q：苦勞したことや苦勞していることは？

A：私自身が高齢になったとき、今、取り組んでいる見守り活動やその担い手がいるのか心配です。

A：次の担い手にどのように引き継げばよいのか悩んでいます。

A：未だに「福祉委員は何しているの？」と言われることが多く、福祉委員の認知度が低いように思えます。

Q：あなたが活動をつづけられる秘訣は？

A：昔、父親が認知症で地域の人たちに助けられ、地域のなかで生活することができました。地域に支えてもらい「恩返しがしたい」という気持ちで活動に取り組んでいます。

A：東日本大震災が起きたとき、地域の災害弱者を真っ先に助けられるよう準備しておくことが必要だと感じ、福祉委員をはじめたのがきっかけでした。今、自分が取り組んでいることをそっと見てくれている人が必ずいると思っています。自分が老いても引き継いでくれる人が必ずいると信じているので『今はできることを精一杯やっていきたい...』そんな想いが活動を後押ししています。



新任の福祉委員さんへメッセージを！

- ◆福祉委員になることは、地域のことを“知り”“考える”きっかけになります。
- ◆チラシや回覧などポストに入れる方が楽です。でも、相手と顔を合わせて会話をすることでいろんな情報が入り、互いの距離も近くなります。勇気をもってぜひチャレンジしてください。
- ◆とにかく楽しむことです。無理はせず、自分のペースでがんばり過ぎないことが大切です。



主な関係機関

■高齢者に関すること■

坂井市三国地域包括支援センター	坂井市三国町北本町 2-6-65 TEL 82-1616 FAX 82-6116
坂井市丸岡地域包括支援センター	坂井市丸岡町西瓜屋 15-12 TEL 68-1130 FAX 68-1129
坂井市春江地域包括支援センター	坂井市春江町江留上昭和 119 TEL 43-0227 FAX 43-0228
坂井市坂井地域包括支援センター	坂井市坂井町下新庄 18-3-1 TEL 67-5000 FAX 67-2807
坂井市基幹型地域包括支援センター	坂井市坂井町下新庄 1-1 TEL 50-2264 FAX 66-2940
坂井市役所 健康長寿課（高齢福祉）	坂井市坂井町下新庄 1-1 TEL 50-3040 FAX 66-2940

■障がい者に関すること■

坂井市役所 社会福祉課	坂井市坂井町下新庄 1-1 TEL 50-3041 FAX 68-0324
-------------	--

■児童に関すること■

坂井市役所 子育て支援課	坂井市坂井町下新庄 1-1 TEL 50-3042 FAX 68-0324
--------------	--

■福祉全般に関すること■

坂井市役所 福祉総合相談室	坂井市坂井町下新庄 1-1 TEL 50-3163 FAX 66-1650
坂井市社会福祉協議会 みくに支部	坂井市三国町楽円 53-16-1 TEL 82-1170 FAX 82-1593
まるおか支部	坂井市丸岡町西里丸岡 12-21-1 TEL 68-5060 FAX 67-2950
はるえ支部	坂井市春江町江留中 10-15-1 TEL 51-4545 FAX 51-6269
さかい支部 （本部）	坂井市坂井町下新庄 18-3-1 TEL 67-0699 FAX 67-2807



～だれもが安心して暮らせる見守りネットワークを目指して～

平成 30 年 11 月発行



社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会